

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	地域生活支援基本事業	会計	一般会計	事業No.	113	施策順No.	34-017
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-3-51-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	福祉課		
施策	34 障害者福祉の推進			事業期間	開始	18	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」にした状態にすることです	対象	1 65歳未満で在宅の身体・知的・精神障害児者 2 奉仕員養成講座の受講申し込みをした市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		65歳未満の在宅で各手帳保持者の概算数(人)		1884	1890	1900	1910	
		奉仕員養成講座の受講申し込みをした市民(人)		51	51	51	51	
意図	1 障害があっても、積極的に社会参加し、自立した自分らしい生活を送ることができるようにする 2 障害者等の支援に関心のある市民に、奉仕員になってもらう							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	地域生活支援基本事業を利用している障害児者の件数/65歳未満の在宅で各手帳保持者の概算数 (%)	7.4	7.3	7.5	7.6	9	7.6	A
	奉仕員の登録をして派遣可能な人/奉仕員養成講座受講申込者(%)	71	49.2	48	50.5	52.6	51	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	引き続き、地域生活に必要な基本的な情報提供やコミュニケーション支援と奉仕員の養成を行った。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	地域生活に必要な、基本的な情報提供やコミュニケーション支援を行う。また障害者を支援してもらえる奉仕員の養成を行う。 1 点字・声の広報 2 奉仕員養成研修補助 3 コミュニケーション支援事業 4 社会参加促進事業補助(IT) 5 自動車改造・免許取得補助		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	地域生活に必要な基本的な情報提供及びコミュニケーション支援等を実施 (1)点字・声の広報 (2)奉仕員養成研修補助 (3)コミュニケーション支援事業 (4)社会参加促進事業補助(パソコン教室) (5)自動車改造・免許取得補助	(1)実利用者数 (2)実利用者数 (3)実利用者数 (4)実利用者数 (5)実利用者数	(1) 46人 (2) 19人 (3) 30人 (4) 5人 (5) 1人
23年度実施計画	地域生活に必要な基本的な情報提供及びコミュニケーション支援等を実施 (1)点字・声の広報 (2)奉仕員養成研修補助 (3)コミュニケーション支援事業 (4)社会参加促進事業補助(パソコン教室) (5)自動車改造・免許取得補助	(1)実利用者数 (2)実利用者数 (3)実利用者数 (4)実利用者数 (5)実利用者数	(1) 46人 (2) 20人 (3) 30人 (4) 5人 (5) 1人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (国)地域生活支援事業補助金(1/2)674千円 (県)地域生活支援事業補助金(1/4)337千円
	国庫支出金		2,668	674	2,706	
	県支出金		1,335	337	1,353	
	起債					
	その他					
一般財源		1,405	3,028	1,352		
計(A)		5,408	4,039	5,411		
正規職員所要時間			90			
臨時職員等所要時間			480			
人件費計(B)			838			
トータルコスト A+B			4,877			

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	支援を必要とする障害者及びその世帯が安心して地域で日常生活が送られる。	施策の成果指標又はムツス指標	安心して地域で日常生活が送れる割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	地域生活に必要な基本的な情報提供やコミュニケーション支援を実施した。		
	後期に向けた課題	障害者にとって、手話、点字等は、基本的コミュニケーション手段であるという理解を深める。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	障害者支援に関心のある人たちへの呼びかけ等を積極的に実施した。		
	後期に向けた課題	障害者支援に関心があるなしにかかわらず、多くの人に参加してもらう。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	特になし。		
	後期に向けた課題	特になし。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	養成講座においては、一部個人負担金を徴収する等している。		
	後期に向けた課題	障害者理解にも大きな役割をはたすことから、個人負担のありかたを検討する必要がある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してみましたか	4年間の振り返り	①各障害者支援団体が講師等を努めてくれるなど、大きな役割を担っている。 ②団体支援団体自体の研修等について助成をしている。		
	後期に向けた課題	特になし。		
全体を通じて	4年間の振り返り	障害者支援に関心のある人たちへの呼びかけ等を積極的に実施した結果、少人数ながらも毎年開催できている。		
	後期に向けた課題	これからは、障害者支援に関心があるなしにかかわらず、多くの人に身につけてもらう時代がくること考える。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------